

はせがみ 馳上遺跡（第6次）

遺跡番号 山形県遺跡番号 202-560・202-562 / 米沢市遺跡番号 353・354
調査回数 第6次
所在地 米沢市大字川井字元立
北緯・東経 37度55分23秒・140度08分08秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（米沢～米沢北間）
調査面積 500㎡
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年10月10日～11月29日
調査担当者 草野潤平（現場責任者）・高橋英路
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・河川跡
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石製品・鉄滓・古銭（文化財認定箱数：2箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡である。これまでの調査で、古墳～平安時代を中心とする生活の痕跡が確認され、北側では中世の遺構も少数ながら認められる。大型の建物跡が比較的多く検出された点や、硯・墨書土器・木簡といった特殊な遺物の出土から、古代の役所に関連する遺跡の可能性など、拠点的性格を持つ集落と目されている。

今年度は、平成22年度に実施した第3次調査区の北東に位置する小区画が調査対象となった（図1）。

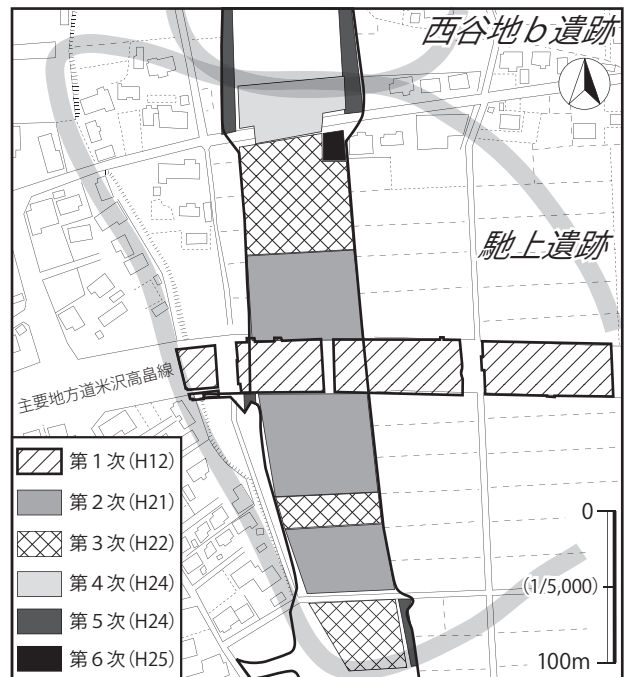


図1 馳上遺跡第1～6次調査区概要図（1/5,000）

遺構と遺物

表土・造成土を除去した結果、調査区範囲の大部分は河川跡で占められていることが判明した（図2）。馳上遺跡や北に隣接する西谷地b遺跡の過年度調査では、複雑に蛇行する河川跡が幾筋も認められ、その多くは遺物の出土状況から古墳～平安時代に埋没したものと考え

られる。今年度検出された SG8001 河川跡は、位置関係から昨年の第 4 次調査区南東側で確認された SG7657 の続きと考えられ、土器などの遺物出土量が少ない点も共通する（写真 1）。河川跡の堆積土層を掘り下げると、調査区東側で南北に重複する竪穴住居跡 2 軒が確認された（写真 2）。竪穴住居跡は出土土器から 9 世紀前半～中葉に位置づけられる。また河川跡西岸で検出された土坑（写真 3）の上層からは、9 世紀後半の須恵器有台坏（写真 4）が出土した。これらの成果から、SG8001 河川跡は馳上遺跡の盛期を過ぎてから形成された流路と考えられる。河川跡の堆積土上には掘立柱建物跡を構成する小型の柱穴が確認でき、西谷地 b 遺跡を中心とする中世の屋敷地が営まれる頃には埋没していたと想定される。

まとめ

今回の調査では、馳上遺跡北東部を流れる河川跡の形成時期に迫ることができ、また集落全体のなかで古代の遺構の粗密がより明確になったと言える。

東北中央道建設に伴う馳上遺跡の発掘調査は、今回をもって完了を迎えた。今後報告書の刊行に向けて出土遺物・記録類の整理・検討を進める予定である。

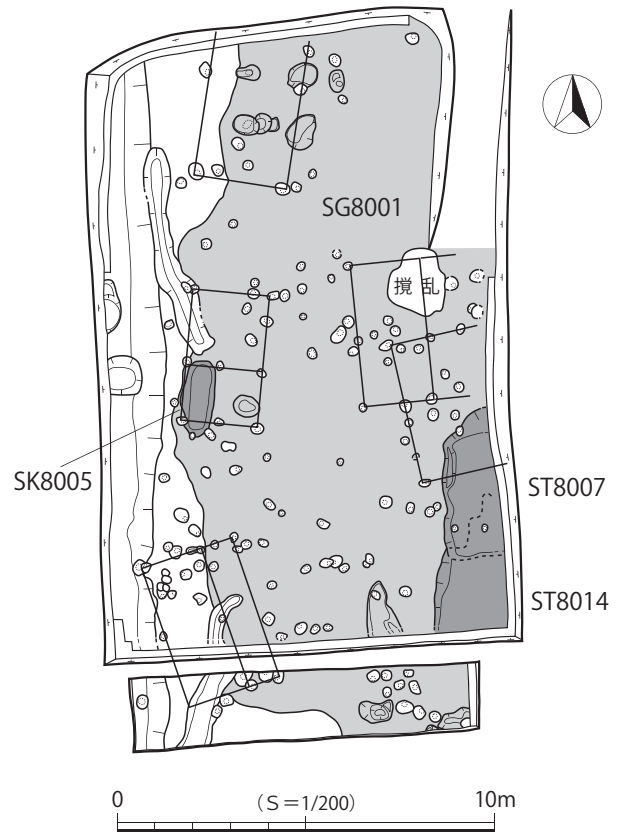


図 2 第 6 次調査遺構配置図 (1/200)



写真 1 SG8001 河川跡 (北西から)



写真 2 ST8007・ST8014 竪穴住居跡 (北西から)



写真 3 SK8005 土坑の須恵器出土状況 (北東から)



写真 4 SK8005 土坑出土の須恵器有台坏